



平成 23 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 中 村 元 治
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

特別損失の計上および平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間の
連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 24 年 3 月期（平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日）第 2 四半期累計期間の業績予想について、平成 23 年 5 月 13 日付当社「平成 23 年 3 月期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期 連結業績予想の修正等

①第 2 四半期累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	3,642	10	76	△ 95
今回修正 (B)	2,896	△ 442	△ 360	△ 986
増減額 (B-A)	△ 746	△ 452	△ 436	△ 891
増減率	△ 20.5%	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 3 月期第 2 四半期)	3,447	△ 418	△ 478	△ 505

②修正理由

当第 2 四半期累計期間の商品市況は、金を中心に貴金属が堅調となる一方、エネルギーおよび穀物価格は高止まりから軟調となり、全国市場売買高は 35,803 千枚（前年同期比 120.4%）となりました。

このような環境の中で、当社グループの中核事業である商品取引関連事業の受取手数料は、主力である貴金属市場が、前年同期に比べて減少したこともあり、2,487 百万円（前年同期比 85.0%）となる見込みであり、売買損益についても、貴金属市場におけるディーリングでの利益などがありましたが、106 百万円の利益（前年同期比 62.5%）にとどまる見込みであります。

また、証券市況は、震災の影響から企業の生産活動や個人消費が持ち直すなかで上昇しましたが、7 月後半以降は欧米のソブリン・リスクの高まりを背景とした欧米株安を受け、国内市況も連鎖安となりました。

当社グループの有価証券関連事業では、受取手数料が 84 百万円、売買損益が 61 百万円の利益となる見込みであります。

この結果、営業収益は 2,896 百万円（前年同期比 84.0%）となる見込みであり、当初予想には届きませんでした。

一方、営業費用につきましては、人件費の減少などにより、3,339 百万円（前年同期比 86.4%）となる見込みであり、当初予想を下回る状況となる見込みですが、営業収益の落ち込みを埋めるまでには至りませんでした。この結果、連結営業損失は 442 百万円となり、連結経常損失は 360 百万円となる見込みであります。

このほか、平成 23 年 9 月 12 日付にて発表いたしました「子会社の固定資産の譲渡および特別損失の計上に関するお知らせ」にあるとおり、固定資産の譲渡を行ないましたが、これに伴い、減損損失 465 百万円を特別損失として計上いたします。

これに加えて、投融資先の財政状態および担保評価を厳格に精査した結果、財務の健全化の観点から、貸倒引当金繰入額 110 百万円を計上したこと等により、連結当期純損失は 986 百万円となる見込みであります。

なお、通期の業績予想につきましては、各市場の相場動向など不確定な点はございますが、当社グループの中核事業である商品先物取引事業が、平成 23 年 8 月以降は、好調に推移していることや、有価証券関連事業においても、新興国債券の取り扱いを始めたことなどによる収益の改善が見込まれることおよび海外投資関連事業において利益が見込まれることなどから、前回、発表いたしました業績予想に修正は行ないません。

業績予想の修正が必要になった場合は、速やかに開示させていただきます。

2. その他

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、市場環境の変化など様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上